

平成27年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

開催日時) 平成27年7月24日(金) 14時～16時

開催場所) 倉敷市立自然史博物館連絡室

協議事項) 平成26年度入館者数について
平成26年度事業報告および決算報告
平成27年度事業計画および予算説明
その他

出席委員) 榎本敬委員, 大守秀行委員, 鴨井香織委員, 河邊誠一郎委員, 小橋理絵子委員, 小林祥一委員, 佐藤國康委員, 島岡浩恵委員, 園田昌司委員, 地職恵委員

欠席委員) なし

事務局) 藤原昌吾教育次長, 中原誠二生涯学習部長, 天本隆士館長, 江田伸司主幹, 狩山俊悟主幹, 奥島雄一主任, 武智泰史主任, 石井陽子副主任

傍聴者) なし

議事録（要旨）

1 開会

2 開会あいさつ

藤原昌吾教育次長

3 新任委員のあいさつ

大守秀行委員

4 委員・職員自己紹介

5 協議

(1) 平成26年度利用者数について

(事務局) 資料をもとに説明。開館以来, おおよそ, 漸増傾向にある。ここ数年間においても同様であるが, 平成26年度については前年に比べて減少した。なお, 25年度は特別展「昆虫とあそぼうよ」の人气が高かったため, 入館者数が多かった。

(2) 平成26年度事業報告について
(事務局) 資料をもとに説明。

(3) 平成26年度決算報告について
(事務局) 資料をもとに説明。

議 長：事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。
(意見なし)

(4) 平成27年度事業計画について
(事務局) 資料をもとに説明。

(5) 平成27年度予算説明について
(事務局) 資料をもとに説明。

議 長：事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。また、自然史博物館全体に関するどんなことでもよいので、ご意見・ご質問等はありませんか。

委 員：27年度の入館者数は前年に比べどうなっているか。

事務局：前年同月と比べると4・5月は下回ったが、6月は若干上回った。

委 員：26年度の入館者減に対し、入館者を増やす取り組みは何かしているか。

事務局：特別にというわけではないが、日常の取り組みで、日曜日の館内クイズ・手作り教室・折り紙教室などを友の会のご協力を頂いて実施している。

事務局：今回実施している特別企画展「生命」では科学センターと自然史博物館が共催している。自然史博物館の入館者数については、この特別企画展の入場者数を加えることにする。なお、この特別企画展終了後は自然史博物館の常設展示に林原コレクションを可能な限り追加して、入館者の増加に努める。

委 員：このパソコン検索全盛の時代に、自然史博物館の存在は貴重と思われる。もっと、ホームページの内容を充実させるようにしたら良いのではないか。学校へのPRも重要である。

事務局：倉敷市科学教育研究会の総会には出向いて自然史博物館をPRしている。学校見学の児童にはガイダンスをしている。

委員：寄贈標本が多いが、人員は足りているか。

事務局：自然史博物館の業務の基本は資料の収集・保存・継承である。寄贈の申し出があれば基本的には受け入れる。資料の整理についてはボランティアの協力によるところが大きく、ボランティアを増やしていきたい。ボランティアの方にとっては生涯学習の機会となるようにしたい。

委員：ティラノサウルスの全身骨格は特別企画展の実施後に返却するのか。

事務局：ティラノサウルスの全身骨格を含む林原コレクションは寄贈・購入で倉敷市が入手したものであるため、返却することはない。

委員：ティラノサウルスの全身骨格だけでも子どもにとっては目玉となり、多くの入館者が来ると思われる。ライフパークではなく、自然史博物館で常設展示してほしい。

事務局：今後、検討してできるだけ近くに展示したい。

委員：以前から言っているように市営駐車場の上に建物を建てたらよい。ティラノサウルスだけで入館者が倍増すると思われる。少子化にもかかわらず、自然史博物館は入館者が増えている。

委員：企画展が終わったら恐竜などの資料はどこへ行くのか。300点もの林原コレクションが専門家しか見られないのではもったいない。今後、一般見学できるようにもっと展示してほしい。収蔵しておくだけでは意味がない。

事務局：特別企画展の実施後は、ティラノサウルスなど大型の標本は仮保管場所にもどすが、それ以外のものは、できるだけ常設展示に組み込むようにする。また、新着資料コーナーなどに期間ごとに入れ替えて展示するなどして、できるだけ多くの標本を、市民にご覧いただけるようにしていく。

委員：自然史博物館の標本は70万点を超えている。10年以上前から言っているが、隣のバス駐車場は1階だけでよいのなら、2、3階は収蔵庫や研究室、天井の高い展示室を設けて、ティラノサウルスを見られるようにしてほしい。

委員：当館の標本は減ることはない。今の収蔵庫でいつまで持ちこたえられるのかと思う。すでに地階廊下に昆虫標本が並べてあるが、本来、収蔵庫へ置くべきでこれで大丈夫なのかと思う。

事務局：収蔵庫のことは館長以下職員や榎本会長からも以前から聞いている。自然史博物館の建物も新しくはなく、市全体に関わる重要な課題と受け止めている。当面は工夫が必要である。

事務局：収蔵物が増えることに他市ではどう対応しているのか参考にしたい。収蔵物を県単位で

集約することについてはどう思うか。

委員：大阪市立自然史博物館や北九州市立自然史・歴史博物館はすでに新しい建物を建てている。倉敷市立自然史博物館は西日本で3番目に開館したが、まだ新しい建物はできていない。

委員：博物館は収蔵標本の数が多いほど良い。どういう標本なら受け入れ可能か。現在では国立公園とかジオパークではすでに地質資料は採取できない。

また、ここの自然史博物館の学芸員は対外的に年間30件以上の講演をしており、大変忙しいと思う。しかし、岡山市では倉敷市立自然史博物館のことはあまり知られていないようである。岡山市でも宣伝してほしい。

事務局：自然史分野の全ての標本についていえることだが、受け入れるかどうかは産地などの採集データがあるかないかが主な判断基準となる。なお、天然記念物級のような二度と手に入らないものは採集データが不完全でも受け入れる場合がある。たとえば昆虫標本であれば、標本箱にきれいに並べられていても採集データが全くないものは受け入れない。逆に多少傷んでいても、採集データがあれば、学術的価値が認められるので受け入れる。当館は地元中心なので県内のもを中心に収集しているが、その背景として世界のものも収集保管するようにしている。

委員：記載論文に掲載された標本はどうか。

事務局：もちろん非常に好ましい。タイプ標本などだけが貴重というわけではなく、データは多いほど良い。

委員：同じ産地の同じ種類の鉱物の標本は必要か。

事務局：ある鉱物の同一産地における微量成分などの含有率の幅を知るのには役立つと思う。例えば考古学では出土遺物の鉛の安定同位体比を原料供給地（原料鉱物の産地）の推定に役立っている。原料供給地が明らかになればその時代の文物の交流を明らかにすることができる。そこで同一産地の鉛鉱物の安定同位体比の幅がどうなっているかを知るには、同一産地の鉛鉱物の標本が複数ある方が良いと思われる。

委員：市立なので市民へのサービスが基本とは思いますが、観光客として外国人も多いので、中国語、韓国語、英語の表示をしてはどうか。

委員：倉敷昆虫館の来館者に自然史博物館を紹介するが、どこにあるのかと聞かれることがある。自然史博物館の場所を知らない人が多い。美観地区でも1か所の観光案内所に自然史博物館のリーフレットがあるだけで、案内が少ない。

倉敷市には幅広い方々が来ており、自然史博物館に恐竜があれば入館者は4倍以上になると思う。外国語の標記もあればよい。「まちかど博物館」もPRになるが、日本語だけである。また、無料

駐車場があれば入館者が増える。

事務局：「まちかど博物館」を貸し出した施設にリーフレットを配置している。

事務局：「まちかど博物館」は倉敷駅前観光案内所、倉敷物語館、観光休憩所、市内図書館などに設置している。英語のパンフレットは簡易印刷のものは用意しているが、細かいところ是对応できていない。来館される外国人は在住者が多いかもしれない。

委員：「まちかど博物館」は少しだけ見た。珍しいものを展示しているが、地元のものが多い。例えば鬼の城の敷石は何でできているか、どこで取れた石かといったことが判るような展示がほしい。

議長：他にご意見ご質問等がないようですので、本日の協議を終了させていただきます。

6 第24回特別展「島の植物－岡山県の島巡り－」についての説明（事務局）

7 特別企画展「生命 過去から未来へ～恐竜が倉敷へやってきた！～林原コレクションより」および林原コレクションについての説明（事務局）

8 藤原昌吾教育次長から佐藤國康委員への感謝状の授与

9 佐藤國康委員の謝辞

10 閉会あいさつ

中原誠二生涯学習部長：本日は貴重なご意見をいただいた。本日の貴重なご意見を今後の施策に活かしていきたい。

11 閉会

（事務局）これにて平成27年度倉敷市立自然史博物館協議会を終了する。

協議会終了後、第24回特別展「島の植物－岡山県の島巡り－」を見学。

以上を、平成27年7月24日開催の平成27年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

平成27年 8月18日

倉敷市立自然史博物館協議会
会長 榎本 敬

